

# 地球の木

♥地球上のすべての人たちと共に生きたい

本格始動!

## 「幸せ分かち合いムーブメント」

### 村びと主体の村づくり

今年の地球の木の総会で、ネパール新規プロジェクトのパートナー、カマル・フヤルさんのメッセージが紹介されました。

「地球の木の皆さまへ。地球の木と私の考え方には共通点が多くあり、それが私たちを結びつけたと言えます。お金を儲けることだけに目が向いている人がたくさんいるこの世の中で、困窮している人たちのために一食カンバ運動をしている皆さんと知り合えたことを誇りに思います。マンガルトール村の人たちと幸せを分かちあうのに多額の資金は必要でなく、地球の木、SAGUN、そして村の人々と共にたくさんの方ができると考えています。(要約)」

2年ほどの準備期間と調査を経て、ようやく新規プロジェクトが動き出した感動的な瞬間でした。これまで10年間活動してきたネパールは馴染みがあり、経験も活かせる。ネパールの平和に向けた取り組みや村びと主体の地域づくりは、国内活動につなげることができる。そして何よりも決定の大きな要因となったのは、信頼できるパートナーとして、カマルさんとSAGUN(サグン)というネパールのNGOとの出会いでした。

SAGUNは開発専門家の集団であり、その実行委員は国際機関や国際NGOで働いた経験のある人たちです。しかし大きなお金が動き、最も貧しい人たちに恩恵が届きにくい大規模な開発には懐疑的です。先住民や、社会的に排除された人々の権利を守り、連帯と調和のある社会をめざすNGOなのです。(理事長 丸谷士都子)



なごやかな雰囲気の中でインタビュー

## CONTENTS

- 本格始動! 「幸せ分かち合いムーブメント」……………1~3
- 支援地から(ネパール・ラオス・カンボジア)……………4
- ありが島ネグロス「15年の支援をしめくる集い」……………6
- 地球の木名物 チヂミ……………6
- 絵画展「私のたいせつな人」……………7
- グローバルアイ「砂糖とお坊さん」……………7
- 活動日誌……………7
- INFORMATION……………8

### カマルさんに インタビュー (2007/07/09)



カマル・フヤルさん

蒸し暑い夏の夕方、東京は幡ヶ谷にあるJICA東京国際センターで、カマルさんを待つ私たち。英語のインタビューなど初めてで、かなり緊張している。すると入り口にスッと現れ、ニコニコとこちらに向かってくるのはカマルさん。大きい目がなんとも優しくだ。そしてそのまま、真っ直ぐにストンと私たちの心の中に入ってしまったかのように、インタビューは始まった。

「日本に到着されたばかりでお疲れのところ、申し訳ありません。早速ですが、現在、農村開発ファシリテーターとして活躍されていますが、困っている人たちのために働くとしたきっかけは？」

非常に貧しい家に生まれ、さまざまな差別を体験しました。そして社会を変えなければならないと思うようになりました。それは簡単なことではありませんが、カースト差別のない、人々が空っぽのお腹でいることのない社会に。その社会づくりに貢献したいのです。人々の「ために」ではなく、人々と「ともに」活動しています。それが私自身の喜びにつながっているのです。

「日本と関わりを持つようになったきっかけは？」

16歳の時、カレッジ(日本では高校2年、3年に当たる)へ行きながら日本人の経営するホテルに勤め始めました。ネパールでは朝6時から10時までが授業時間で、その後はフルタイムで働きます。マンガルトールの生徒たちも同じですが、16ともなると、食べるためには自分で稼がなければならないのです。私は仕事をしながら、夜、日本語の勉強をしました。これが日本に親しみを覚えた最初の体験です。卒業後、高校の教師となり、英語と社会を教えました。21歳のとき、あるNGOに請われて辺境の村に農村開発ファシリテーターとして行き、ネパールの農村、人々の置かれた状況を毎日肌で感じました。



ワークショップ中の村びとたち  
計画は自分たちで

2000年にカトマンズに戻ってきてワークショップをしていた時、ネパールで活動していた日本人男性と知り合い、日本でもワークショップをしてみないかと誘われました。「ええっ！日本で？無理ですよ」「いいや、君ならできると。同年10月に来日し、35日間にわたり、さまざまなグループや学校でワークショップを行いました。

#### 『その時の日本の印象は？』

どこでも皆が早足で、急いで歩いているのには驚きました。ネパールはみんなゆったりと暮らしていますから。(笑)あとショックを受けたのは、ワークショップ中に居眠りをする生徒がいることでした。「先生、すみません。7人も寝かせてしまいました」「100人中たった7人だけだろう。いつもよりずっと少ないよ」何という国かとびっくりしました。そこでやり方を参加型に変えたら居眠りはなくなったのです。

『カースト制度についてですが、仕方がないものだと思いますか。ネパールの人々はいつか無くなって欲しいと願っているのでしょうか？』

カースト制度で恩恵を受けている人は続いてほしいと思うし、差別を受けている人はなくなってほしいと思う。私自身は、カースト制度はなくすべきものだと思います。カースト制度は非人道的なもので、名前によりどのカーストに属するのか明らかだし、職業や結婚する相手が限られ、低カーストの人は高いカーストの家には入れないし、お寺の鐘を造りながらそのお寺に入れないのです。また上のカーストの人々が下位の人々を支配しようとしています。

しかし現在、都市部で、また特に若い人たちの間では、カースト制度に反対する人が増え、差別は減ってきています。私たちも、他の団体もカースト制度に反対する活動をしています。カーストは人々の心に深く根付いているのです。それを教育によって取り除く試みもいろいろとなされています。この10年間でカースト制度に対する考え方に大きな変化がありましたが、それはマオイストの影響もあります。

『マオイストの影響も？日本ではマオイストは武装集団というイメージが強いですが・・・』

何にでも良い面と悪い面があり、マオイストも同じです。マオイストたちの間ではカーストによる差別は存在しません。否定的に見られているマオイストですが、今は8つある政党の中のひとつとして認められてきています。

『ネパールがこれから民主国家として前進していくために、大切なことは？』

最も大事なことは国家の再編成だと思います。そして一般市民中心の仕組みができることが大事です。一年前までは国王、カーストの上位の人々、それに男性のみが国を治めていました。これからは一般市民を中心とした体制ができるだろうと期待しています。開発(人々の生活向上)は、政治とは切り離せません。人々に目を向けた、人々に根ざした政治の仕組みを作り上げていく。そのために今ネパールはとても重要な時期にあります。

『最後になりますが、ワークショップをする際に、ファシリテーターとして、どんなことを心がけていますか？』

まず私自身が楽しむこと。次に、参加者が楽しめるものであること。そのための雰囲気づくりを心がけています。そして、参加者が何かを学んで、それを他に還元する、変化を起こすことに貢献することが大切であり、その変化を私が見届けるところです。この3つの過程は、マンガルトールで私たちがこれから行うことにももちろん当てはまります。

私は、人と接する時や付き合いでは、明るく楽しく、肯定的、友好的にふるまいますが、開発のことに限って議論するときは、どのように開発を進めていくかを批判的に真剣に見つめ、いつも冷静な評価を与えます。

これから、地球の木の皆さんとも、そういう姿勢でマンガルトールの活動を共にすすめていきたいと思っています。

『なるほど。互いのそういう関係はとても大切なことですね。興味深いお話をいろいろと伺って、マンガルトールのこれからの活動が、とても楽しみになってきました。たいへん長い時間ありがとうございました。』(広報チーム)



マンガルトール村は山の中

### みんなの思いをのせて

内戦が終わり民主化の過程のさなかにあるネパール。貧困が貧困を生む現状を断ち切るためには、声なき声が力強く反映される社会をつくる必要があります。そのため地球の木では、少数民族が多く住む村の高校を入口に、村びと自身による地域の貧困改善をめざす活動をスタートしました。周辺の15の村で唯一の高校を支援することで、自ら地域の問題に対処していく力を身につけた人材を育てます。その過程で地域全体を巻き込みながら、最も弱い立場に置かれた人たちのエンパワメントにつなげていきます。

### キーワードは「ムーブメント」

昨年11月の現地調査から早8ヶ月。この間日本とネパールでやりとりをしてきましたが、カマルさんは徹底的に「村びと主体」にこだわります。「村びと、SAGUN、地球の木、それぞれがいいところを出し合って幸せを分かち合う開発を進めていこう」というこれまでの話し合いから、私たちがこのプロジェクトを「幸せ分かち合いプロジェクトと名づけませんか」と提案すると、芳しくない表情です。???

聞いてみるとネパールの村びとにとって、プロジェクトという言葉には外部からやってきて期間限定でドナー(お金を出す側)主体の事業をやって去っていく、というよくないイメージがあるとのこと。目から鱗でした。そこで、「やってあげる」「やってもらう」あるいは「やらせる」「やらされる」ではなく「みんなでやっていく」ために、「ムーブメント」という言葉を使うことにしました。

### 5年後の理想像を描いて

当然計画づくりから村びと主体です。3月には生徒や村びとが学校に集まって、村のよいところと改善点を洗い出した上で、5年後の理想像を考えました。生徒みんなが高校へ進学する機会を得られること、図書室や教師の確保などを含めた学習環境の改善、リソースセンターとして周辺の小・中学校をサポートする力をつけること、卒業生は地域の貧困家庭を支援する活動を組織すること、空腹のまま寝る子がいなくなること…。自分たちの地域を率先してよくしていくのだという気概が感じられます。これに基づいて立てられた計画は  
①図書室建設・整備  
②貧困などの理由で学校へ行くのが困難な子どもたちへの奨学金の給付  
③教師の増員  
④貧困層への収入創出プログラムの実施可能性調査(高校生自身で調査する)です。

### まずは図書室から

現在進められている図書室建設は、村に「図書室建設委員会」を立ち上げるところから始まりました。この委員会が村びとと集会を開いて経緯を説明。セメントや材木などの資材は近くの町で購入しますが、砂や小石などは村びとが川沿いで集めています。建設作業も村の大工さんが監督し、レンガを運ぶなど、できることは地域住民のボランティアで取り組みます。

「ムーブメント」はこのように手間も時間もかけながら、内側から芽生え成熟するプロセスのことなのです。決して外から短期間で効率よく進めていくものではないですね。最近では「村びと参加型」がうたわれるプロジェクトも多いのですが、本当の意味でこれがなされることはあまりないのです。地球の木では5年をめぐりにこのプロセスに参加します。そう、参加するのは村びとの方ではなくて、むしろ私たちの方なのかもしれませんね。この間、村のニーズ、SAGUNの考え方、地球の木会員の皆さんの思い、それぞれが融合するように心を砕いていきたいと思っています。来年3月には村を訪問するスタディツアーも予定しています。

(事務局 関川溪子)

レンガを積む村びとたち



校舎の屋上に図書室を建てる

### マンガルトールってどんな村？

首都カトマンズから東へ約70kmの山間地。98%の村びとが農業に従事しているが、地勢や天候の厳しさから生産性は大変低い。そのため海外に出稼ぎに行き、肉体労働に従事する者も多い。ほとんどの集落が山の上や中腹に位置しており、道路とつながる集落はわずか。電気は通っていない。

人口：4,261人 世帯数：781 集落数：43  
識字率：48% (全国平均：男性61.6% 女性26.4%)

タマン族というチベット・ビルマ語系の先住民族(全人口の5%)が多く住んでいる。仏教徒。ヒンズー国家であったネパールでは権力の仕組みから常に切り離され、底辺に置かれてきた最も貧しい民族のひとつ。



日本人によく似た顔立ちをしている

森の産物 ラタン(藤)

日本の私たちの生活の中にも、ラタン(藤)で作られた家具や雑貨があります。例えば、テーブル、ソファー、カゴなど、つる性のヤシの仲間の植物で、曲げやすく軽いので、さまざまな日用品となって、日本のみならず世界各地に出まわっています。ラオスでも多種のラタンが森にあり、近隣国のベトナムやタイなどで加工され、他国へ輸出されています。同時に、森とともに暮らす村の人々にとっても身近な植物です。

ラオスの村の人々は、多くはラタンを食用として使っています。「ワイ」と呼ばれ、茎を火であぶって、トゲだらけの樹皮を剥いですりつぶし、香辛料と混ぜて味噌風ソースを作ります。この「ラタン味噌」をもち米につけながら食べます。食用以外にも、長い茎を裂いて編み、カゴやザルなどを作って日常生活に利用しています。しかし、以前は村近くの森で見られたラタンも「今は、山向こうの遠くまで行かないと採れないよ」と語る村の人もあり、この植物は森から次第に減ってきています。この森の産物を持続的に利用していくため、JVCはラタンの自家栽培の支援を昨年に行っています。村によって生育状況は様々ですが、数センチだった苗が、今は背丈ほどに伸び、実をつけ始めています。

将来、ラタンを村の中で増やすため、種から発芽させ、苗を育てる方法を学ぶ研修を6月に開催しました。遠くの村からも集まって15名ほどが参加しました。粒状の実から種を取り除き、発芽しやすくするため、カミソリ刃で種に切込みを入れる作業を実践。参加者の関心はとて高く、「切り込みはこの位置か?」「この深さでいいの?」とお互い尋ね合い、和気あいあいと作業しました。水に浸した椰子の皮で覆い、密閉して1ヶ月もすると発芽します。「いままで実は食べたりしていたけど、種を発芽させて苗が作れるなんてやったこともなかった」と参加者は、研修の意義について話していました。炎天下の中、種を土に植える方法も学び、はじめて一緒に集まった人たちとは思えないチームワークぶり、土づくり、苗床づくりも行われ、苗の成長ぶりをまた揃って話し合える時が楽しみです。

多様な生態の森林の中で自然に育ったラタン。枯渇しつつある資源を村内で育成することで、将来も持続的に利用していくことができるかどうか。ラタン製品を購入する際に、この製品がどこから、どのようにやって来たものか、気にして選択することで、ラオスの森の保全にむすびつくかもしれません。

(JVCラオス事務所 尾崎 由嘉)



ラタン研修を受けるナタン村の人びと

職業訓練センター支援プロジェクト プノンペンからの便り



プノンペン市内、スタイミアンチャイごみ捨て場

今年度からカンボジア・タケオ県にある職業訓練センターの支援を始めます。センターでは、「売られる危険度の高い」女子約30名が織物とハンディクラフトを学び、経済的自立を目指しています。そのセンターは今年から地球の木と協力関係にある、日本のNGO Love&Peaceが2年前に立ち上げたものです。そのNGOが10年以上にわたって支援してきたプノンペン・スタイミアンチャイ地区にあるゴミ山に住む人の出身地調査をしたところ、タケオ県出身が最も多いことがわかりました。そこで、Love&Peaceは対症療法的なごみ山の子どもの支援ではなく、「貧困」の根源を直視した支援が必要であると、センターの開設に踏み切ったとのこと。ごみ山の子どもの支援に参加し、職業訓練センターの立ち上げにも参加した浅石啓介さんは、いま、プノンペンでクメール語を学んでいます。彼からカンボジアへの思いを綴った便りが届きました。

(カンボジアチーム)

生きた笑顔の作り方を学んで

私が初めてカンボジアを訪れたのは約3年前、大学2年生のときでした。それまでカンボジアの位置はおろか、「貧しい国の人々」と勝手なイメージを作り上げていました。非常に貧しい生活の中に、人々の元気な笑顔なんてないのではないかと。ところが実際に来てみると、カンボジアに生きる子ども達のたくましい笑顔に魅かれました。私は、「生きた笑顔の作り方」をカンボジアの子どもや大人から学んだのです。そして明日への活力を与えてくれる、そんな笑顔を彼等は私に与えてくれたのです。その元気で笑顔に再び会いたいというごく素直な願いを抱きました。

カンボジアで最初に訪れたのが「この世の地獄」のゴミ山でした。毎日朝から晩までゴミ拾いをして、1日の収入は1ドルにしかなりません。子どもは7歳にもなれば大切な労働力になります。自分の体よりも大きなゴミ袋を持って、朝日が昇ると同時にゴミ山に入り、大人と同様に仕事を始めます。

昼食はゴミ山の中で。お腹を満たしたあとは、ゴミとして出されたソファーに座り、昼寝をする大人たち、ゴミの山の中から見つけた空気の抜けたボールで、無邪気にサッカーをしはじめる満面の笑顔の子どもたち。ゴミ山でも、そんなカンボジアの人々の日常的生活風景が見られます。

そこで、一人の女性に出会い、忘れられなくなりました。ゴミ山の学校で生徒として通っていた彼女。最初はどのようにしていいのか迷った私。カンボジアは、「恋人と付きあう」=「結婚」という国ですから、それなりの覚悟が必要でした。そんな中、自然と彼女の純粋な笑顔と性格に惹き込まれていきました。英語も日本語も話せない彼女。学びたくてもお金がない。だから私がクメール語を勉強しているのです。それが私たちの次へのステップとなるのです。将来カンボジア人の妻を迎える準備を今から整え、そして、これからもカンボジアにずっと関わっていこうと思っています。(東京経済大学生 浅石 啓介)

里親支援 困難にもめげず育つ子どもたち

新しい支援の形として始まった「カンボジア里親の会」も、2年目に入りました。里親の皆様はもとより、会員の皆様の温かいご支援とご協力のおかげと、心より感謝しております。先日カンボジアから子どもたちの近況と写真が届きました。

バン・ソッチェ (19歳)

昨年、日本に留学の話があり大変喜んでいましたが、事前の健康診断でB型肝炎であることが判り、留学を断念しました。バタンバンの「るしな」の事務所から高校に通っていたのですが、シムリアップに移り療養した結果、今ではすっかり体調も回復し、この秋から復学とのことでした。

バン・ソッチャイ (19歳)

バタンバンの寺でお坊さんの修行中でしたが体調を崩し、シムリアップで休養中。体調を回復後、修行を続けるか、職業訓練を受けるかを決めるとのこと。修行を続ける場合、バタンバンのお寺は環境が良くないので、シムリアップのお寺に移るとのことです。

バン・サッカナー (16歳)

中学3年生になりました。シムリアップで楽しく学校生活を送っています。

里親の会では11月頃、子どもたちに会いに行く予定です。これからもご支援とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

(カンボジア里親の会世話人代表 佐々木 慧子)



あれから11年

1996年、初めて極西部を訪ねた時の光景が昨日のこのように蘇ってくる。水しぶきを上げておんぼろジープで橋のない川を渡り、ジャングルを抜けてニムディ村に辿り着いた時、ぼろをまとった人々が珍しそうに私たちを見にやってきた。あれから11年、内戦、戒厳令、パンダ(ゼネスト)などの困難を乗り越え、極西部のプロジェクトも大きな成果をあげている。

地球の木はネパールの現地NGO、SOARSとのパートナーシップのもと、1997年から81クラスの識字教室を実施してきた。教育プログラムと並行して、裁縫教室・野菜作り・貯蓄トレーニングなど収入創出のための実践的なトレーニングも支援してきた。私たちの月々ランチ代一食分の支援は現地にもどのような変化をもたらしたのであろうか。

「声なき人々の声を代弁したい」とニルマラさんがよく言っていたが、教育もなく、人前で話すことなどなかった女性たちが大勢の人を前に自由に、論理的に意見を言えるようになった。コミュニティの開発活動に参加する女性が増えた。男女の差別なく、子どもたちを学校に行かせる必要を知り、保護者の教育に対する態度が変化した。学校は子どもたちで溢れているという。

お金の勘定ができないために騙されたり、多額の借金を負わされていた人々が、騙されなくなった。仕立て屋や野菜売りなど、小口の商売を始めてお金を稼げるようになった人々もいる。農業協同組合もでき、総会には200人が集まったという。

中でも元気がいいのは、若者たちである。カトマンズ近郊のイマドル村のユースクラブとの交流が功を奏したのか、最近では地域の環境改善にも熱心である。養殖池の管理を任せられ、魚を育てたり、バナナを売って収入を得るようになったという嬉しいニュースも入ってきた。SOARSは村人たちの更なる自立をめざして、助成金申請書の書き方などの研修も行っている。学んだことを即、行動に移すパワーは次に何を生み出すか、楽しみだ。

(ネパールチーム 乳井 京子)



プティックを営む裁縫教室の卒業生

15年の支援をしめくくる集い

# 「ありが島ネグロス」

7/7 新横浜オルタナティブ生活館

微笑ましく温かいネーミングのこの会に集まったのは約30名の多彩な顔ぶれ。一緒に活動してきた、地球の木と日本ネグロス・キャンペーン委員会(JCNC)のメンバーたち、青少年スタディツアーに参加した若者たちなど、15年間フィリピン・ネグロス島の支援に関わってきた人たちが一堂に会し、同窓会のように華やいた、活気のある集まりとなった。

前半は、ネグロス支援の始まりから今日までの経緯が、地球の木、JCNC双方から報告された。1985年にネグロスの飢餓が起きJCNCが発足、緊急支援が始まる。地球の木の支援は1992年からで、砂糖きび農園労働者の自立をめざす。そしてそれは農地の獲得、砂糖きびの協同耕作、作物の多様化へと進み、2004年、家族による有機野菜を中心とした地域循環型農業の支援へとたどりつく。

当日、出席者は、配られた丁寧なレポートや、最新現地ツアーの映像から、家族農業の経営に自信をにつつつあるモデル農家の様子などを見たりして、これまでの地道な支援の道のりを確認し合い、またこれからのネグロスにも思いを馳せた。

JCNCの運営委員長、秋山真兄(なおえ)氏は、報告を「日本の僕たちがあれこれ言う、というより、現地の人同士の交流がとても大事なことを学んだ。これからは東南アジアの人たちをつなぎ合わせる新ネットワークが必要だろう」と結んだ。また現在JCNC事務局代行の大橋成子さんからは「長年やってきて何が宝かと言えば、青少年スタディツアー第1号でネグロスにやって来た時、彼らは15~16歳の高校生だった。その子たちがずっとつながっていて今ここに、こうしているのですから」と



マジカルシュガーを初披露するチームのメンバーたち

熱いメッセージ。後半は、「マジカルバナナ」に続く期待の開発教材「マジカルシュガー」のワークショップが初公開された。タイトルも「あまーい砂糖のにがーい話」と魅力的。

<1.クイズ>10種類の砂糖らしきものが入った小瓶のセットが各テーブルに配られ、それらが何であるか当てる。入っていたのは塩、和三盆、片栗粉、白砂糖、グラニュー糖、葛粉などであった。

<2.写真から考えるフォトランゲージ>

<3.ロールプレイ>題して「ネグロスの村は今」。テレビのリポーターが、砂糖農園労働者から家族農業へと転換した家族を訪ねるという設定。生き生きとした台詞で会場をひきつけた。

<4.日本の食卓を考える>今朝食べた食事メニューをみんなで見せ合う。そして各食物の自給率クイズへと進む。

また開発段階ということだが、楽しく考えさせられる内容だった。さらなる詰めと工夫を加えての完成が待たれる「マジカルシュガー」である。

その後は場所を移して1階のレストランで交流会が行われ、さらにあちこちで会話がはずんだ。たくさんの人たちが考え、悩み、現地に行き、紆余曲折を経ながら進めてきたネグロス支援の歴史は、隣人と共に歩もうとする地球の木そのものの歴史でもあり、感慨深い集まりとなった。(広報チーム 斉藤 和子)

その秘伝のレシピは東京の葛飾区でチヂミ屋をしている在日朝鮮人女性・夫衛星(フ・ウィソン)さんが教えてくれた。凝り性からか、味にこだわる。2年前に焼肉屋を開業したお姉さんと一緒に、100回以上の試作を重ね、このレシピを「開発」したそうだ。ポイントは日本人の口にも合うようにちょっぴり和風にアレンジしてあること。冷めてもおいしいチヂミが本当のチヂミだという。夫さんは、すらっとした長身で、かつて朝鮮学校の舞踊部の花形だったと言う話にもうなづける。昨今の日朝関係の悪化にとっても心を痛めている夫さんは、地球の木の活動を聞き、快く秘伝のレシピを教えてくれた。彼女は、テレビでもおなじみ、東京大学教授の姜尚中(カン・サンジュン)さんの大ファンで、研究室へもチヂミを差し入れたこともあるという。あの姜尚中さんも食べた「チヂミ」、みなさんもいかがですか? (事務局 筒井由紀子)

(このチヂミのレシピをご希望の方は、事務局までご連絡ください)



地球の木では、国際協力のおまつりなどに出席して飲食販売を行ない、活動費の一部を捻出している。最近、よく作っているのが「千チミ」(韓国風お好み焼き)。外はパリッと、中はもちっとして、ごま油の香りがなんともいえない。老若男女に好評で、おまけに準備も簡単。5月19、20日に行われた県の多文化共生のおまつり「あーすフェスタ」では、今年も300枚を超える千チミを焼き、10万円近い売り上げがあった。

## \* 絵画展 「私のたいせつな人」

今年で7回目となる「南北 코리아 と日本のともだち展」が東京都児童会館で6月28日から7月4日まで開催されました。今年のテーマは「私のたいせつな人」。日本、韓国、北朝鮮に住む子どもたちが描いた「たいせつな人」のほか、ピョンヤン、ソウル、東京に住む子どもたちが「私のたいせつな人は……」と語るビデオメッセージのコーナーが初めて登場しました。

さらに今年は、これまでの7年間を振り返るコーナーもあり、今までにピョンヤンからどのような絵が届いたのかが紹介されました。日本から子どもの絵を持参して、思いを伝えてきたことで、ピョンヤンから届く絵が少しずつ変わっていく様子わかります。会場では、「写実的で硬い絵がだんだん柔らかい感じになってきて、一部日本並みのマンガ調の絵が出てきたことが印象的でした」「なんとなくほのぼのとした暖かいものを感じました」などの感想が寄せられました。

このあと、8月にピョンヤン、9月にソウル、そして新潟、埼玉、松山など、日本各地でも開催される予定です。

(地球の木は「南北 코리아 と日本のともだち展」実行委員会に参加しています) (事務局 筒井由紀子)



毎年「ともだち展」を楽しみにしてくれている子どもたち

## 活動日誌 (6月~8月抜粋)

- |         |   |          |  |
|---------|---|----------|--|
| 6月 2日   | なんぶランチ総会<br>地球の木サロン「パッチフラワーレメディ」  | 7日       | 「ありが島ネグロス」(オルタ館)<br>かながわ国際協力フォーラム(YNN主催) |
| 3日      | 福祉クラブまつり参加(相模ランチ)   | 10日      | 第2回理事会                                   |
| 4日      | マジカルシュガー教材作成ミーティング  | 14日      | 地球の木サロン「アロマテラピー」「パッチフラワーレメディ」            |
| 5日      | 地球の木サロン「実践英会話」/グッズ販売(東戸塚デポー)  | 17日      | 地球の木サロン「実践英会話」                           |
| 9日      | 地球の木サロン「アロマテラピー」  | 20日      | 第2回ランチ連絡会                                |
| 11日     | マジカルシュガー教材作成ミーティング  | 21日      | 地球の木サロン「エッセイ修行」「ハングルに親しむ」                |
| 13日     | 地球の木サロン「Tea&Talk」   | 21日・22日  | 港南台国際協力まつり参加(なんぶ)                        |
| 14日     | 第1回理事会  | 30日~8/10 | 開発教育教材素材展参加(市民国際プラザ)                     |
| 16日     | 鎌倉女学院国際セミナー「ネパール家族ゲーム」<br>YNN「スタディツアー勉強会参加」(YNN主催)<br>地球の木サロン「エッセイ修行」「ハングルに親しむ」 | 8月 1日    | ラオス人形劇(協力:地球の木/出展:川崎ランチ)                 |
| 22日     | 第1回ランチ連絡会   | 4・5日     | DEAR全国研究集会「マジカルシュガー」発表                   |
| 23日     | 地球の木サロン「パッチフラワーレメディ」  | 8日       | 地球の木サロン「Tea&Talk」                        |
| 28日~7/4 | 「南北 코리아 と日本のともだち展」(東京都児童会館)   | 11日      | 地球の木サロン「アロマテラピー」「エッセイ修行」                 |
| 29日     | アーユス総会出席  | 19日      | 地球の木カフェ@ほくぶ                              |
| 7月 1日   | 川崎インターナショナルフェスティバル参加(川崎ランチ)   | 21日      | 地球の木サロン「実践英会話」                           |
| 2日      | マジカルシュガー教材作成ミーティング  | 24日      | 第3回ランチ連絡会「マジカルシュガー体験&タ涼み会」               |
| 3日      | 地球の木サロン「実践英会話」  | 25日      | 地球の木サロン「ハングルに親しむ・実践編」                    |
| 6日      | 地球の木カフェ   | 26日      | つるみオープンカフェ出店(とうぶランチ)                     |
| 6日~8/5  | かながわNPO活動展(YNN主催)   | 28日      | 第3回理事会/地球の木サロン「実践英会話」                    |

\*その他、各チームミーティングが毎月行われています

## 2008カレンダー販売「子ども日記@地球」

今年も、地球の木のカレンダーを販売いたします。かわいい子どもたちの笑顔あふれる写真が私たちに元気を与えてくれます。ご自宅用に、親しい方へのプレゼントにぜひご利用ください。

◆撮影：小松義夫 ◆再生紙100% ◆サイズ：56cm×38.5cm（使用時）  
◆価格 1,500円

カレンダーの収益は支援地の人々の生活向上に使われます。お申込みは10月1日からe-mail、Fax、電話で受け付けます。お問い合わせ：地球の木事務局



## 地球の木カフェ in Autumn

恒例のオープンオフィス「地球の木カフェ」。会員の方がクローアチアやチベットで撮った写真を事務所に展示します。

激動を潜り抜けた東ヨーロッパの今の顔をぜひ見てください。もちろん、アジアのグッズも販売します。

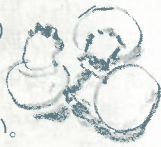
手作りのお菓子や地球の木カレー、ラオスコーヒー、ネパールティー、韓国・中国茶などを用意してお待ちしております。

日時：9月26日(水) 11:00~18:00  
場所：地球の木関内事務所

## 食べて見たいな よその国！ ラオス料理講習会

ラオス料理ってどんなものなのでしょう。作って食べて、おなかを満たした後は、写真や生活用品を使ったクイズも行います。

日時：9月29日(土) 11:00~14:30  
場所：あーすぶらざ調理室(本郷台)  
主催：地球の木ラオスチーム  
\* 詳しくは同封のチラシをご覧ください。

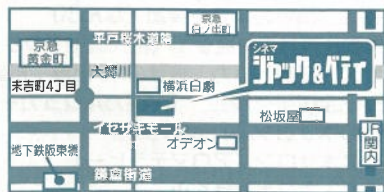


## 映画「アボン-小さい家」 シネマ ジャック&ベティにて上映

自然に感謝して生きるフィリピンのイゴロットの家族の心温まるお話。地球の木では3年前に自主上映しました。見逃した方はこの機会にぜひ！

この会報誌持参で何人でも1,300円で鑑賞できます。

日時：9/15(土)~9/21(金) レイトショー 20:45~  
9/22(土)~9/28(金) モーニングショー10:00~  
場所：シネマ ジャック&ベティ(横浜市中区若葉町3-51)  
TEL045-243-9800 FAX045-252-0827



MAP(PDF) <http://www.jackandbetty.net/access/map.pdf>

地球の木のホームページが新しくなりました  
URLは、<http://e-tree.jp>です。ブックマークを書き換えてください。  
今までのホームページからもジャンプします。

## グローバルフェスタJAPAN2007

NGOの大きなおまつりです。たくさんのNGOが出展します。さまざまな活動を見る、シンポジウムを聞く、ワークショップに参加する、食販で各国の味を楽しむなど、1日楽しめます。地球の木もアジアのグッズとコーヒー、紅茶、カレー粉を売ります。

日時：10月6日(土)、7日(日) 10:00~17:00  
場所：東京・日比谷公園

## 横浜国際フェスタ2007

横浜市のNGOを中心にした国際協力団体のおまつり。横浜市のNGOも頑張っています。食販ブースあり、子ども向けイベントあり、セミナーあり。家族でお出かけください。もちろん、地球の木もグッズを販売します。ぜひ会場でお会いしましょう。

日時：10月27日(土)、28日(日) 10:30~17:00  
場所：パシフィコ横浜展示ホール(桜木町)

## 予告編

### 地球の木連続講座

### グローバル・アイ そこが知りたい!!

日時：第1回 12月8日(土)  
第2回 1月18日(金)  
第3回 1月26日(土)



私たちの暮らしと表裏一体の貧困、年々おかしくなっている地球環境、地域紛争は果てがなく、「グローバルイゼーション」はますます不平等な世界を作り出しているようです。

来年のG8サミットは日本で開催されます。この機会に私たちも、市民としてよりよい世界のために何ができるのか、考えてみませんか？

\*会場は横浜近辺で、午後の2時間を予定しています。

## ネパールYOUTHとの交流会

2008年2月20日(水)~29日(金)、ユースクラブのメンバー2名が来日します。日本の若者との交流会や合宿を予定しています。

あなたも企画から参加してみませんか？ホームステイも募集中です。

お問い合わせは地球の木事務局まで

\*この事業は国際交流基金の助成を受けています。